

学校訪問 13

ふるさとを愛し、 生き生きと学ぶ子どもたち

玉川小学校

玉川小学校（玉川町玉・池原 繁延校長）は全校児童29人。小規模ですが、みんな仲良く、明るく元気な子どもたちです。同校の特色ある取り組みの一つに、全校での琴や三味線といった和楽器の演奏があります。3年前から取り組んでおり、毎年夏休みになると、音楽会や学習発表会に向けて集中練習を



琴や三味線を弾く子どもたちの表情は真剣そのもの



息のぴったりと合った一輪車マ스ゲーム

始めるそうです。指導には、先生や保護者、また地域の皆さんが当たっています。

子どもたちは、日ごろなじみの少ない和楽器の弾き方や、互いのリズムの合わせ方に苦労しながらも、本番目指して一生懸命練習を重ねます。昨年は「京の春」「崖の上のポニョ」を演奏しました。「今年には三味線に挑戦してみたい」と楽しみにしている6年生の植田佳奈さん。また、スポーツ活動にもいろいろと取り組み、中でも子どもたちが夢中なのが一輪車です。毎週金曜日、始業前15分間のチャレンジタイムに、全校で一輪車を練習します。上級生が下級生に教えてあげたりして、子どもたちは次々と新しい技を覚えていきます。1年生はまだう

まく乗ることができませんが、早く上達したいと放課後や休日にも頑張って練習しています。こうして運動会のころには全員が一輪車に乗れるようになり、毎年みんなで一輪車マスゲームを行います。「もっと練習をして、一番難しいシソーを披露したい」と2年生の藤本理子さん。このほか、地域の伝統芸能である渡り拍子についても、2年ごとに3・4年生の総合的な学習で学んでいます。地域の皆さんに教えてもらいながら練習し、秋祭りで舞いを披露します。ふるさとを愛し、生き生きと学ぶ玉川っ子たちの活動の様子が満載の同校ホームページ（<http://www.sccity.takahashi.okayama.jp/tamagawasho/>）も、ぜひご覧ください。



渡り拍子の練習も、子どもたちがふるさとを学ぶ機会の一つとなっています

栄光をたたえます

文化やスポーツ活動の全国大会出場、それに準じる成績を収めた人・団体を紹介します。

◆竹浪佳輝さん

高梁小学校6年・たけなみエニスクラブ



第28回全国小学生テニス選手権大会（7月28日～30日・東京都）

出場予定。「1回でも多く勝てるよう一生懸命頑張りたい」

「栄光をたたえます」に情報をお寄せください

市内に在住、または市内で活動し、右記に該当する人・団体の情報があればお知らせください。

■問い合わせ・連絡先
企画課公聴広報係
(☎0210)



前列中央が代表者の高岡芳夫さん(69)

若者のパワーで舞う！

いいのやま 飯山後援会(川上町)

午後8時、川上町七地の「七地神楽社中道場」に地元の青年たちが集まってきました。「パン、パン」。最初に道場の神棚に拝礼を行います。平成21年5月、青年が神楽を練習する場を作ろうと、地元有志で飯山（いいのやま）後援会を結成しました。

飯山は、川上町にどっしりと構える弥高山の別名。ほかの山々より、ひととき高い弥高山のようにナンバーワンになり、頂点を目指そうと命名しました。

会員は、17歳の高校生をはじめ、地元の会社員など25人。会員のほとんどが20代～30代で月に1回、2時間程度の熱のこもった練習を行います。

練習の成果は、7月下旬から8月上旬にかけて毎週1回程度、市内外からたくさんの方が訪れる弥高山公園で披露する予定です。「練習だけ一生懸命頑張っても駄目。」



会員を指導する佐藤さん（後ろ）

観客の前で演技をしないと上手にはなりません。ぜひ、若者たちの躍動感があふれる舞いを見てください」と高岡さん。今後、7月31日(土)開催の成羽愛宕大花火、10月31日(日)開催の第25回国民文化祭・おかやま2010「神楽フェスティバル」にも出演する予定です。会員の指導を担当する佐藤利博さん(42)は、「以前は、師弟関係がないと神楽を教えることもありませんでした。師匠があつてこそ自分。伝統や礼儀を重んじ、国指定の重要無形民俗文化財である誇りを持って、演じられるようにしていきたいです」と話します。